

# 家計圧迫「値上げの春」

4月に予定されている主な値上げ (「しんぶん赤旗」3月31日付より)

サービス・商品	提供企業	値上げ幅 (エネルギーは前年同月比)
輸入小麦	農林水産省	17.3%
スナック菓子(うまい棒)	やおきん	20%
チーズ、ピーナッツクリームなど食品24品目	明治	5.4~7.9%
家庭用チーズ35品目	雪印メグミルク	4.3~10%
レトルトカレー	大塚食品	11円
生菓子、焼き菓子18品目	銀座コージーコーナー	平均2.7%
定番飲料の7割	スターバックスコーヒー ジャパン	約10~55円
持ち帰り用コーヒー豆	スターバックスコーヒー ジャパン	約90~300円
食用油	日清オイリオグループ	1*40円以上
食用油	J-オイルミルズ	1*40円以上
トマトケチャップなど	カゴメ	約3~9%
ウイスキー	サントリー	5~28%
ティッシュ、 トイレットペーパー	日本製紙クレシア	10%以上
カセットコンロ	岩谷産業	約5~15%
メリーズ(紙おむつ)	花王	約10%
蛍光灯	パナソニック	25~40%
電気料金	大手7社	52~127円(標準家庭)
ガス料金	大手4社	63~88円(標準家庭)
首都高速道路料金	首都高速道路	630円(普通車・上限)
国内線航空運賃	日本航空	約8%(大人、普通席)
タイヤ	ブリヂストン、横浜ゴム、 ミシュランなど	約7~10%

食料品の値上げが相次ぐ中、4月以降も身の回りの幅広い商品の価格が引き上げられます(表)。原油をはじめ小麦粉や大豆など原材料価格が高騰しているため、家計に厳しい「値上げの春」になります。

農林水産省は輸入小麦の売渡価格を17.3%引き上げます。今回の引き上げは北米産小麦の不作によるもの。今後、ウクライナ危機の進展によってはさらなる値上げの恐れもあります。

## 暮らしと営業守る緊急対策を

### 共産党が対策本部

日本共産党は、このほど立ち上げた物価高騰・国民生活防衛対策本部(本部長・小池晃書記局長)の第1回会合を1日に開きました。

物価高騰と新型コロナ危機で暮らしと営業が脅かされているのに、4月からの年金削減、10月からの高齢者の医療費負担引き上げなど、暮らしに追い打ちをかける逆行が行われようとしています。

会議では、補正予算の編成とともに▽消費税5%への緊急減税やインボイス導入中止▽困窮者への支援金拡充など▽コロナ対策の抜本強化▽年金削減や医療費負担増の中止—など緊急対策を求めることを確認しました。



共産党の第1回対策本部会議=1日、国会内

## カジノ誘致計画 強行

### 大阪・和歌山 断念へたたかいこれから

大阪市の夢洲、和歌山市のマリーナシティへのカジノを中核とした統合型リゾート(IR)の誘致に賛成する議案が大阪市議会で3月29日、和歌山市議会で同30日、賛成多数で可決されました。共産党は強く反対しました。

大阪では松井市長が「カジノに税金は一切使わない」と繰り返していたのに、夢洲の土地改良に約790億円を投入するなど公費負担が膨れ上がる、和歌山では推進の自民党県議ですら「資金計画が不透明」と批判するなど、計画のずさんさが浮き彫りです。

住民団体や共産党は、「まともな説明さえつくさず強行するのは許されない」とし、「計画の撤回を」「国は認可するな」と誘致断念へ運動を広げることになっています。

消費税5%に、年金減らすな